

炉辺談話

3人1話



《1日型式の地区大会に想う》

(写真左より) 第271地区パストガバナー 松本 卓臣 (福山)
 第271地区大会幹事 松井 五郎 (広島)
 「友」第271地区委員 金藤万佐則 (広島)

『地区大会の目的は会員相互の交歓と感銘深い講演、地区内クラブ及び国際ロータリーの問題の討議によってロータリーのプログラムを推進すること』と示されています。

地区大会は新しい会員、新しいクラブの方々にとって、ロータリーを肌で感じる最良の機会でもあり、ガバナーにとっては任期中の最大の行事でもあります。特に引受け地のホストクラブにとっては、活動計画の最大プログラムになります。地区大会は久方振りに古い友人に逢うことを楽しみにする会員もあれば、広く知友をもとめる会員もあります。

戦後25年間に国内で約250の地区大会が開催され、一応の形式ができましたが、その反面マンネリ化して面白くなくなったことも事実です。その上経費についても懇親会を含めると一人当たり3万円以上になるものが多いのですが、地区大会にご経験豊富な松本パストガバナーと地区大会の幹事役を3回実行された広島RC松井君と、いろいろな角度から今回の1日形式の地区大会を話しあって頂きたいと思います。

松本 地区大会は理事会から提出された問題、あるいは地区内に発生した問題を審議し地区内クラブ運営について討議したり、親睦にも重点があり、謂わば年一回のお祭りという意味もあるが余り派手にやることだけが成功だとは思わない。今回は地区分割後間もないことでもあり、過去4回ホスト、コ・ホストをやられた広島RCが

これからの大会は中小都市でも開催されることを想定して一日で大会をやる一つのモデルを実行されたことに意味があると思います。

松井 大会プログラムは、最小限8～9時間のなかで大会テーマを位置づけた内容をすべての番組にいかにとり入れるかが最も困難でした。経費も参加者の登録料と地区分担金ですべて賄い、ホストクラブの負担なく実施するためにはこれまでのように参加者にお土産を用意したり、有名タレントを提供することをしないで、地元にて可能な出演者を考えることに苦心しました。エキスカージョンもやめました。

金藤 今回の大会は従来の2日形式から転換して1日形式とし、大会経費と、その中味について発想を変えたものですが、これまでに他地区で特殊な例があったらお話し下さい。

松本 関東方面で登録料5千円、参加者が全員弁当持参で、しかし討論の議題もそれぞれ持ちよって開催したことがあります。一日形式も全国的にないではないが、問題はRIの定める大会目的を充分達成し、参加者を感動させしかも親睦が充分達せられるかどうかの問題です。ロータリー



は100人100色の意見があり、毎年交替するガバナーの個性とその考え方、開催地の現況により毎年それぞれ異色ある大会であってよいと思う。

金藤 大会経費について概要を松井さんお話し下さい。

松井 今までの大会のように、すべての経費を含めて1人3万円程度(参加者2万円地元負担1万円程度)でやっていたものを、パーヘッドで2万円程度で、しかも地元負担なしでやろう、参加者1,200人で1人2万円とし2,400万円でやることにしました。結果は参加者1,300人で総経費2,600万円ですみ、剰余金200万円を広島アジア文化会館(海外からの留学生受入施設)に寄付しました。一応目的を果たしたと思っております。

金藤 今大会のテーマとプログラムのなかでの目玉番組は何ですか。

松井 大会テーマはRI会長ターゲット(手をさし伸べよう)を主題に世界理解をすべての番組にとり入れたことです。例えば、オープニングに広島在住の米国人医師ハミルトン先生の仕舞「安宅」を披露して頂きました。日本の伝統文化が外国人にも理解できることを証明しようとしたのです。またロータリー交換学生ドナー嬢(カナダ)が広島原爆病院で患者に奉仕したことがテレビニュースとなり、これをドキュメンタリー映画に制作して上映しました。この映画は参加ロータリアンが涙を流して感動したプログラムでした。ロータリー奨学生、米山奨学生、GSEの討論会、また広島RC住野会員が収集した国際ロータリー大会記念切手(1931～1978年、53カ国

173種)を展示し、これを参加者にカラー写真ポスターにして謹呈しましたが大変珍重されたようです。なお余興はすべて会員、家族、市民の方々におねがいし、会員及び家族の芸術展(絵画、写真、彫刻)も好評でした。要は手作りのものが感動をよぶということなのです。

金藤 ロータリーが日本に入って約60年、戦後再開からも30年、すでに当時の社会的背景も異なった現代では、毎年どこでも同じ形式の大会でなくてもよいではないかと思いますが……これからの望ましい大会についてお話し下さい。

松本 広島ではすでに4回の大会を引受けられたことでもあり、RIの推奨するプログラムをご存じの上で、今年は1日形式をやられた。簡単ではあったが、内容が豊富で地区大会の目的を果たしたと思う。大会委員長のメッセージにもあったが、これからは山口、広島の二県でやることだから一日形式も一つのテストではなかったか。地区内に重要な諸問題がある場合は、討議の舞台づくりも必要だし、親睦重点主義から今回のように感動または考える大会のあり方もある。これからもガバナーが国際協議会その他でその年の地区大会について研究され、大会委員長に指針を与えなければなりません。

金藤 「ロータリーの友」誌には、毎年各地の大会スナップが掲載されますが、どうも毎年同じような形式のようですが、せめて5年に1回位2～3地区連合会をやり国際大会スタイル(本会議共3日間位)のものにしてはと思うのですが……

松本 大都市開催の場合は、宿泊施設そ



の他会場，交通機関が整い，また観光資源も豊富であるから，従来の二日がかりのゆったりとした大会あるいは連合地区大会も数年に一回位はやるべきだと思う。

松井 広島でやった一昨年の3地区連合は，大会運営が従来通りのプログラムであったから，無理があったように思いますが……。

金藤 ミニ国際大会にして，国際大会形式を採用し，交換地区，姉妹クラブを迎えてやったら国際大会に参加経験のない会員には好評ではないでしょうか。

松本 地区大会はあくまでもその年のガバナーの主催することですし，ホストするクラブの中にはベテラン会員ばかりでもないから，大会プログラムにはいろいろと満足できないものもあり，折角ロータリーを知りたいと思っても，懇親会余興的番組に終始しロータリアンを失望させる大会もある。いずれにせよ今回のように新形式，小経費等を中心に考える大会も80年代への模索と言えましょう。

金藤 本日はどうもありがとうございました。